

平成29年第1回

荒川区教育委員会定例会

平成29年1月13日
於) 第七中学校 ランチルーム

荒川区教育委員会

平成29年荒川区教育委員会第1回定例会

1 日 時	平成29年1月13日	午後3時00分
2 場 所	第七中学校 ランチルーム	
3 出席委員	委 員 長 委員長職務代理者 委 員 委 員	高 野 照 夫 小 池 寛 治 小 林 敦 子 坂 田 一 郎
4 欠席委員	教 育 長	高 梨 博 和
5 出席職員	教 育 部 長 教育総務課長 教育施設課長 学 務 課 長 指 導 室 長 生涯学習課長 図 書 館 課 長 書 記 書 記 書 記 書 記	阿 部 忠 資 山 本 吉 毅 泉 谷 清 文 相 川 隆 史 小 山 勉 北 村 美 紀 子 田 窪 和 美 椿 田 克 之 中 村 栄 吾 湯 田 道 徳 宮 島 弘 江

(1) 審議事項

議案第 1号 荒川区学校教育ビジョンの改訂について(素案)

(2) 報告事項

- ア 平成28年度小学校ワールドスクールの実施結果について
 - イ 中学校ワールドスクールの実施について
 - ウ 第九回柳田邦男絵本大賞の受賞者の決定について
- (3) その他

委員長 では、荒川区教育委員会第1回定例会を開催いたします。

出席委員数の御報告を申し上げます。本日4名の出席でございます。

会議録の署名委員は、小林委員及び坂田委員にお願いいたします。

それから、昨年10月14日開催の第19回定例会の会議録につきましては、前回の定例会において配付し、この間に確認をしていただいております。

きょうは、特に委員から御意見がなければ承認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 では、承認いたします。

また、10月28日開催の第20回定例会及び11月11日開催の第21回定例会の会議録が机上に配付されております。次回の定例会で、承認について諮りたいと思いますので、次回までに確認し、何かお気づきの点があれば事務局まで御連絡をお願いいたします。

では、本日の議事日程に従いまして議事を進めます。

本日は審議事項が1件、報告事項が3件でございます。

初めに、議案第1号「荒川区学校教育ビジョンの改訂について（素案）」を議題といたします。事務局より議案の説明をお願いいたします。

指導室長 新たな荒川区学校教育ビジョンに関しまして、御意見をいただいた部分を修正した内容を素案で御説明申し上げます。

修正された箇所を、順次御説明申し上げます。初めに3ページを御覧ください。3ページには、現行の荒川区学校教育ビジョンの体系図を記載させていただきました。体系図があった方が、その後の課題や成果がわかりやすいという御意見をいただいております。

続きまして9ページを御覧ください。成果のマルの二つ目でございますが、「働くことの意義」の記載が必要だということで、2行目に「実際に見るなどして働くことの意義や尊さについて」という形で、「働くことの意義」を追加させていただいております。

続きまして、31ページを御覧ください。学校図書館の事業の説明の部分でございますが、一つ目のマルの部分の2行目でございます。「情報センター化推進校を」次からでございます。「指定し、司書教諭（学校図書館担当者）と学校司書の定期的な打ち合わせ時間を設けている」と、推進校の説明を入れさせていただいております。あわせて次のマルの部分でございますが、「平成27年度から」と、次の活性化モデル校の実施開始時期を入れさせていただいております。

続きまして、36ページを御覧ください。36ページの真ん中の、「とりわけ最近では」のところからでございます。「“第4次産業革命”ともいわれ」、その次に「あらかじめ、

入力されたものではなく、自ら判断できるような進化した人工知能が社会や生活を大きく変えて」を追加させていただきました。

またその下の段落、「その一方で」の段落でございますが、その段落の3行目からでございます。「こうした声に応えながらも、教育においては、基礎的・基本的な事項などの小・中学校における教育の根幹の普遍的部分に加えて」を記載し、基礎・基本の部分の内容に触れております。また、2行下のところでございますが、「就学前教育も大切にしながら」と記載し、幼稚園教育、保育園教育の部分にも触れさせていただいております。

続きまして、37ページを御覧ください。体系図の中で、特に(3)の施策の柱の部分になります。1番目の柱の「夢につながる主体的な学びを推進する」の(1)でございますが、その中に「論理的に考え」という言葉を入れさせていただきました。

また(4)でございますが、ただのコミュニケーションではなく国際コミュニケーション、「国際」という言葉を入れさせていただきました。

続きまして、2番目の柱でございます。二つの「こころとからだの健全な育成を図る」という柱の中で、(1)を「互いに認め合う教育を推進する」という表現にいたしました。ここでは互いに認め合う教育が必要であるため、その内容を示させていただきました。

続きまして、(5)でございますが、「豊かなスポーツライフをとおして」という表現を、スポーツライフがなじみがない言葉でもあるということで、「スポーツをとおして健康な身体をつくり」と、記載させていただいております。

続きまして、38ページを御覧ください。3番目の柱「体験的な学習活動をとおして」の部分でございますが、(2)でございます。「自然体験をとおして自然や地球を」の後でございますが「愛し、環境を大切に」という言葉を入れさせていただいております。

あわせて(3)でございますが、「伝統・文化を理解し」の前に「日本の」を記載させていただきました。

続きまして40ページを御覧ください。「21世紀の社会は知識基盤社会であり」という段落の下から2行でございます。幼児教育の部分に触れさせていただき「幼児教育の段階や、幼稚園・こども園、保育園、小学校、中学校が連携しながら子ども一人ひとりに確実に育んでいくことが求められている」という言葉を入れさせていただきました。

あわせて41ページを御覧ください。方向性2「多様性を尊重し、豊かな感性と創造力を育む」の部分でございますが、第3段落「そのために」の段落でございます。「引き続き、自然体験活動や職業体験活動、自治活動」の後ろに「部活動」を入れさせていただいております。部活動の教員の負担軽減はしっかりとさせていただきながら、部活動をとおして先生

との人間関係が深まり、礼儀・マナーが身につくという効果もございますので、部活動を入れさせていただいております。

続きまして46ページを御覧ください。(1)「主体的に取組み、論理的に考え」の部分でございますが、二つ目の段落でございます。「区においては、これまで確かな学力の定着・向上に特に力を入れ」の次の部分に「論理的に思考する力を基盤とした」と入れさせていただき、さらに2行下のところでございますが「これらの課題についても、着実に」という言葉を入れさせていただいております。

続きまして47ページを御覧ください。真ん中辺に、「また」の段落がございますが、ゆいの森ができましたので、「ゆいの森」を入れさせていただきました。ゆいの森をしっかり活用していただくと考えてございます。

同じく、47ページの下から2行目でございます。ICT機器を活用する内容でございますが、「情報スキルや情報モラルなど」という言葉を入れさせていただいております。

続きまして51ページを御覧ください。(4)の「すべての子どもが楽しく学べる学校をつくる」という部分でございます。3行目でございます。「こうした」の後に、「様々な不安や悩みを抱えている子どもや保護者の心の痛みに対してあたたかい手を差し伸べ、きめ細かい支援を充実させ」という言葉を入れさせていただいております。

次に53ページを御覧ください。(2)の自然体験の柱の部分の二つ目の段落でございます。「区においては」の次でございます。「これまで科学教育の充実を図りながら、観察や実験をとおして科学的なものの見方や考え方を身に付けてきた」という言葉を入れさせていただいております。

続きまして54ページでございます。二つ目の段落「今後も引き続き」の次に「理科の授業における実験・観察や」を入れさせていただいております。また、次の行の中で「科学的な考え方や」という言葉を入れさせていただいております。その行の最後には、「次代のあらかわの」という言葉を入れてございます。

続きまして54ページ、(3)でございます。「日本の伝統・文化を理解し」という内容の部分におきましても、「荒川区の歴史を学び、深く理解するとともに」の後に「日本の」を入れさせていただいております。また、最後の下から2行目でございます。「日本の伝統・文化への理解を深め」、日本の伝統・文化を理解するという内容の言葉を入れさせていただいております。

説明は以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

委員長 ただいまの説明につきまして、質疑はございますでしょうか。

教育部長 委員長、少し補足なのですけれども。

委員長 お願いします。

教育部長 今回修正したものにつきましては、昨年実施いたしました総合教育会議で、教育委員の先生方からいただいた御意見、まずこれを踏まえて修正してございます。さらに、昨日、文教・子育て支援委員会で議会の報告をしまして、そこでも幾つか御指摘があったものですから、そういったもので反映できるものを反映したというのが、今の御説明の内容でございます。

本日の夜、小中学校のPTAの会長さんに集まっておきまして、この素案を皆様方には既に事前に送付はしているのですが、改めて説明をしまして、そこで御意見をいただくのと、後で小学校のPTAの会長さんのまとめたものだとか、中学校のPTAの会長さんのまとめたものだとか、御意見をいただきたいと思っております。

加えて、区内の図書館あるいは小中学校にもこの素案自体を置きまして、それで御意見をいただけるような状況を作り、また、ホームページへの掲載や区報への掲載ということで、2週間の期間を設けて御意見をいただく予定です。そして改めてまた、こんな御意見がありましたということをもとめて先生方にお示しさせていただいて、もし変わる部分がありましたら、今のような形でこういう御意見があったのでこのような形にしましたとか、あるいは既に反映しているのだからこういう状況でしたとか、参考意見にさせていただきましたとか、そういった表のようなものを取りまとめて、御説明をさせていただければと思っております。

最終的には、2月10日に教育委員会がございまして、そこで先生方にまた御説明をした上で、その後に総合教育会議がありまして、そこでまた御意見があれば、最終的に反映させるというような、そういう段取りになっておりますので、現段階での状況ということで、本日御説明させていただきました。

委員長 きょうは、12月22日に開かれた総合教育会議の、各先生方の御意見が反映されているかどうかの御確認をしてくださいということと、今晚PTAの会長の方々に説明をさせていただく。そして、それが終わったならもう一度会議を開いて、さらに総合教育会議でも意見をいただくということですね。

教育部長 そうです、総合教育会議で改めて意見をいただきたいと考えております。

昨日、議会報告をしたのですけれども、議会の先生方からも総じて高い評価をいただきました。

委員長 ただいまの説明について、質疑はありませんか。

坂田委員 全体として高い理想というか、高い志でビジョンができていると私としては思いません。

そういった中で、あと我々としてぜひ御意見を伺いたいのは、一方で現場で非常に困っておられる方もいるわけで、そういったところで我々の理解できていないところとか、認識できていないところとか、そういったようなところがあればさらに反映できればと思います。

指導室長 このビジョンに関しまして、来年1年間さまざまな場面で学校の先生方等に、説明をさせていただきながら周知をしていきたいと考えております。その中で、意見が出てきた場合にこれから策定いたします教育推進プランの中にも反映させながら進めさせていただければと思っております。

今の先生の御意見を踏まえてから、現場の考えや困っている部分もしっかり聞き取っていただければと思っております。

坂田委員 特にここにもありますけれども、やはり先生方の時間が限られているというか、問題というのは全体に非常に大きな影響を及ぼしてくると思いますので、そこまでは我々としても認識しているのですけれども、ぜひこういう対策をしてくれとかいうようなことがあれば、このビジョンを実効的なものとする意味でも、そういった観点は非常によいと思います。

委員長 10年間という期間もありますから、その点見直しもあるかと思えます。

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 では、議案第1号について意見はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 では、討論を終了いたします。議案第1号について異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議ないものと認めます。

議案第1号「荒川区学校教育ビジョンの改訂について（素案）」は、原案どおり決定いたしました。ありがとうございました。

続いて、報告事項に移ります。

初めに、「平成28年度小学校ワールドスクールの実施結果について」、御説明お願いいたします。指導室長、お願いします。

指導室長 「平成28年度小学校ワールドスクールの実施結果について」、御報告させていただきます。骨子といたしましては、区の英語教育の一環として小学校6年生に、清里高原において外国人とともに共同生活を行う小学校ワールドスクールを実施したため、その概要等を報告するものでございます。

別紙1を御覧いただきたいと思えます。今年度の参加児童数でございますが、88名でございます。例年に比べると10名から20名少ないのでございますが、今年度、来年度と下

田臨海学園が臨時的に実施されることもございまして、若干減っていると考えているところ
でございます。

続きまして、別紙2-1を御覧ください。ワールドスクールアンケート集計ということで、
終了した後1カ月たったところで、子どもたちにアンケートをとらせていただきました。
にしましては、「あまりできなかった」、「できなかった」という否定的な御意見はなか
ったのでございますが、 の習った英語を積極的に使うことができなかったという質問では、
あまりできなかった児童が3名おりました。また、 、 、 では「あまりそう思わない」
と回答した児童が1人ずつおられます。

子どもたちは4泊5日という長い期間、家庭を離れての生活でございますので、できるだ
け児童の気持ちをくみ取れるように、来年度さらに子どもたち一人一人に目をかけていき
たいと考えております。

続きまして、別紙2-2を御覧ください。記述式の答えをいただいております。 、 、
に関しては非常に肯定的な意見をいただいております。

もう1枚おめくりいただきますと、保護者の意見・感想がございます。この中には「とて
も楽しく英語にふれることができ、大変充実した4泊5日だったと思います。区でこのよ
うなスクールを企画していただけるのは、とてもありがたく思います」という、区の施策に
対して好意的な御意見をいただいております。

また、「5日間という長い期間、英語の生活で過ごせて貴重な体験ができ、荒川区に住ん
で本当に良かった」と、そのような御意見もいただいております。

しかしながら「緊急連絡はメールではなく電話をしてほしかった」や「これで終わらず、
定期的に学べる機会があれば良いと思いました」。それから、「活動中、ブヨに噛まれたと
のこと。処置をしていただいたようですが、どのような処置をしていただいたかなど、申し
送りをしていただけるとありがたかった」等、保護者の皆様には様々な御心配をおかけし
ていることも理解できました。このような点も、次年度に改善できるようにしていきたいと思
っております。

続きまして、別紙3は活動の様子を今年度写真として御提示させていただいております。
児童たちは非常に楽しそうにやっております。初めの写真は、全体の集会でございます。
その後、グループに分かれている写真が授業になります。3ページの写真は、外国人英語指
導者と一緒にハイキングに行った様子でございます。

最後の4ページの上がキャンプファイヤー、4ページの下からが発表会の様子でございま
す。子どもたちは意欲的に活動してくれております。

説明は以上でございます。

委員長 ただいまの御説明につきまして、質問はございますか。

小林委員 質問ではないのですが、今、科研のプロジェクトで、小学校の英語教育の研究をしております。それで、中国や台湾の小学校の英語教育などを視察させていただいたり、あるいは日本や諸外国で小学校英語教育にかかわる専門家の御意見を伺ったりしています。

その中で、英語に浸ることが非常に大切ということをお指摘いただいております。例えば週に1、2回ということだと、翌週になるともう忘れている状態になってしまいますので、こういった5日間という、期間が短くてもいいので、とにかく英語漬けの環境を設定することが、極めて効果が高いのではないかと教えていただいております。

その意味で、荒川区のワールドスクールは、5日間英語漬けになりますので、英語学習にとってみると極めて効果が高いと思います。特に荒川区の場合は私立学校ではなく公立の学校ですので、公立でよくやりますねという専門家の御指摘もいただいております。先生方は非常に大変ですが、今後ともぜひ継続していただきたいと思っております。

以上です。

委員長 ほかに質問はございますか。

小池委員 質問ではなく感想なのですが、私はワールドスクールに行って1泊2日、最後の方にいたのですが、前の日はキャンプファイヤーがすごく盛り上がってよかったのと、最後に子どもたちの発表会、グループごとに5～6人でやるのだけれども、前の日にリハーサルをやって、当日の間にもものすごく進歩があるのです。そのくらい、みんながこうしたらどうかというのを、それぞれが考えているなというのがよくわかる。

それから、おっしゃったように缶詰でやるということが極めて重要だと思う。だから、英語で考えるということ、英語の中に浸されるということによって、子どもたちが英語に対する恐怖感というのがほとんどなくなっているのです。何を聞かれても、わからないときはわからない、「それはどういう意味？」というふうに自発的に聞けるような、そういう自発性を高めるという意味で、これは極めていいと思いました。

これはぜひ継続、あるいはさらに強化していただきたいと思っております。

小林委員 英語に浸かる「イマージョン教育」は重要ですね。

委員長 ありがとうございます。

今までのお話は小学校のワールドスクールでしたが、この次は「中学校のワールドスクールの実施について」御説明をお願いいたします。

指導室長 件名でございます。「中学校ワールドスクールの実施について」でございます。ポイントでございます。平成28年度より、公立大学法人国際教養大学のプログラム「イングリッシュ・ビレッジ」に中学生が参加し、英語を使ったコミュニケーション力やプレゼン

テーション力を高めるための中学校ワールドスクールを実施したため、その概要等を報告するものでございます。

別紙1を御覧ください。今年度の学校別参加生徒数でございますが、すべての学校から参加していただきまして、総勢30人で実施させていただきました。

別紙2-1、アンケートの結果でございます。今年度から始めたワールドスクールを生徒たちは好意的に受け取ってくれております。このアンケートの中で「発音記号の学習は学校で教わることと違う部分がありましたか」という設問がございました。「大いにそう思う」という生徒が17%、「そう思う」という生徒が77%。このワールドスクールでは、発音記号の学習を徹底的に学習しており、約2時間、発音記号一つ一つについて、これはこうやって発音するのだと繰り返し練習いたしました。

その成果として、別紙2-2でございますが、上から3番目の「発音記号の学習について」でございますが、「自分でもわかるくらい発音が良くなったと思う!」という記述がございました。

また、このワールドスクールは中学校の英語の先生の研修にもなるということで、引率教員を中学校の英語の先生にもお願いしてございます。このカリキュラムを中学校の先生自身が御経験されて、学校教育の授業の中で活用できる部分は活用していただきたいと考えてございますので、来年度以降さらに充実できたらと思っているところでございます。

このワールドスクールでの特徴は、このページの一番上の「英語で説明する活動について」というところに出てございます。その一番下の行に、「難しい単語を使わずに置き換えて表現することができた」とあり、難しい単語を知らなくても、自分もっている単語に置きかえて表現していくものでございました。

次の別紙3からは、活動の様子でございます。高梨教育長、阿部部長も参加していただき、非常に効果が上がっていることと御報告いただいております。

特に、第1日目「秋田市役所で熱烈的な歓迎」では、市役所の皆さん全員が廊下に並んで拍手で迎えていただき、生徒たちにとっては大変印象に残っていたようでございます。

また、竿灯祭りも秋田市の皆さんのおかげで良い席で見られ、生徒たちにとっては貴重な体験だったようでございます。

報告は以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

委員長 ありがとうございます。

どなたか、御質問ございますでしょうか。

小林委員 これは、選ばれた学生さんだけですか。

指導室長 今回、大学からカリキュラムの上限の人数を指定されましたので、各学校で募集を
かけさせていただき、提出された作文等を参考に選抜させていただいてございます。

小林委員 非常にいいプログラムですね。

指導室長 今回実施するに当たりまして、前年度に中学校の校長会から、英語担当の校長先生
にも実地踏査に行っていたいで、ほかの学校が実施しているところを見ていただいたので
すけれども、やはり生徒たちにとっては非常に有意義であって、それから教員の研修にも使
えるという意見をいただきまして、実際に実施する運びになったというものでございます。

小林委員 どういった発音の練習をするのかを見学させてもらいたいですね。

指導室長 発音記号一つ一つを表示いたしまして、この発音記号はこうやって発音するのだと
いうように教えていただきます。例えば、“ r ”を私たちがですとぐっと巻きなさいとか昔は
教わったのですけれども、そうではないとか、“ t h ”などもまた若干違うのだよというこ
とを言われて、子どもたちの感想の中には「発音がしやすかった」という感想もございま
した。生徒たちは最後にプレゼンの発表を1人1人がするのでございますが、前日宿舎で夜遅
くまで暗記をしている姿が見られたという報告を聞いておりまして、先ほど小池委員からお
話しいただいた、リハーサルの後、小学生も本番まで上達したという、同じ状況がここでも
伺われるところでございます。

委員長 よろしいですか。では、続いて、「第九回柳田邦男絵本大賞の受賞者の決定につい
て」、御説明をお願いいたします。

図書館課長 第九回柳田邦男絵本大賞の受賞者が決まりましたので、御報告するものでござい
ます。資料を御覧ください。今年度の第九回絵本大賞の応募状況は、子どもの部
1, 145作品、一般の部20作品でございます。

受賞者につきましては、この資料の裏面に記載しております。子どもの部の大賞が汐入東
小学校の6年生、八木橋奈菜さん。以下優秀賞、佳作が3名ずつ。それから東京荒川ロータ
リークラブからいただいておりますロータリークラブ賞が第五中学校3年生吉田梨々花さん。
それからロータリークラブの努力賞が以下10名ということになっております。

その下が一般の部。大賞が細野久美子さん。それから優秀賞が3名、佳作が3名。東京荒
川ロータリークラブ賞が高橋廣視さんです。

それから一番下に特別賞ということで、昨年度と同様、ウイーンから荒川区役所に夏、実
習に来ている学生に今年度も応募していただいたので、その中から1名選定ということにな
ってございます。

それでは、資料の表面にお戻りください。この結果をもちまして、表彰式が今月27日の
金曜日でございます。教育委員の先生方には表彰式、それから柳田先生の講演会がございま

すので、もし御都合がつくようでしたら御出席をお願いしたいと考えております。できれば、本日出欠をいただければと思っております。

私からの説明は以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

御質問はございますでしょうか。

小林委員 私は出席させていただきます。

図書館課長 ありがとうございます。

当日、この前がちょうど「小論文」と「調べる学習」と「お弁当レシピコンテスト」の表彰式があって、その後サンパールに移動していただく形になります。

委員長 この日は教育委員会ですね。

教育総務課長 そうですね。

図書館課長 教育委員会がある日なので、かなり時間が長くなってしまいます。

委員長 ありがとうございます。では、私も行く予定を入れておいてください。

次に移ります。

1月から3月までの教育委員会関係行事について、配付資料があります。これに関して、何かございますでしょうか。

学務課長 今の日程に関連しまして、28年度小中学校の卒業式、次年度の入学式、それから2月10日に行われます特別支援学級の「卒業生を送る会」、それぞれ御都合がつけばマルをしていただくようになってございますので、次回の教育委員会で結構でございますので、御都合を御記入の上事務局にお渡しください。

教育総務課長 御手元に今の学務課長説明の「卒業生を送る会」、「卒業式」、「入学式」の確認票を置いておりますので、後ほど事務局にお返しくださいませと思います。よろしく願いいたします。

委員長 後ほど御連絡してください。よろしく願いします。

生涯学習課長 今御手元にお配りしました、「成人の日のつどい」の参加者数でございます。

1月9日におきましては、教育委員の先生の皆様に御出席いただきまして、本当にありがとうございました。式典の後、新成人による実行委員の企画ということで、あの後10校の中学校に取材してきたビデオレターの上映や、新成人による荒川クイズも行いました。またその後3階、4階、5階にミニパーティー会場を用意しまして、そちらで学区域ごと、峡田地区、瑞光地区、日暮里地区、尾久地区とそれぞれに分かれてパーティーを行い、懇親をしていただきました。

御手元の参加者数でございますが、1,991名が対象でございましたが996名、区外の方も入れまして996名、50%の出席でございました。ちなみに昨年の「成人のつどい」は、対象者が1,834名のところ919名ということで、やはり50%程度、半分の出席でございました。

おかげさまでつつがなく終わることができました。少し区長が新成人の私語を注意した場面がありましたが、その後はそういうグループは退席されまして、無事に終わることができました。ありがとうございました。

委員長 ありがとうございます。

1月から3月までの教育委員会関係行事、特に重要なのは、卒業・入学式があります。それもよろしく申し上げます。それから、「成人の日のつどい」についての御報告をいただきました。

ほかにございますか。ないようでしたら、以上をもちまして教育委員会第1回定例会を閉会いたします。

ありがとうございました。

了